

基 本 要 領

I 総 則

- 1 早稲田大学大学院経営管理研究科は、経営管理専攻（専門職学位課程）からなり、（１）ビジネス及びファイナンスに関する高度な専門・実務教育、（２）関連諸領域の高度な知識の修得、（３）ビジネス及びファイナンスのプロフェッショナルのリカレント教育、（４）グローバルなビジネス環境への対応、を教育上の目標とする。
- 2 本研究科の教育は、講義科目・演習科目からなる「授業科目」および「研究指導」（学位論文作成等に関する指導）によって行う。授業科目が全日制グローバル・１年制総合・MSc in Finance・夜間主総合・夜間主プロフェッショナルプログラムにそれぞれ配当されている。
- 3 本研究科には、次の２種類の学生を収容する。
 - （１）正規学生
 - （２）科目等履修生このうち、（１）は経営管理修士（専門職）、ファイナンス修士（専門職）の学位を得ようとする者を対象とし、全日制グローバル・１年制総合・夜間主総合・夜間主プロフェッショナルプログラム修了者に与えられる学位は「経営管理修士（専門職）」である。MSc in Finance プログラム修了者に与えられる学位は「ファイナンス修士（専門職）」である。
- 4 １学年度は、14 週ずつの２学期（春学期、秋学期）に分けられる。この１学期をセメスターと呼ぶ。また、１学期を前半と後半に分け、春学期前半を春クォーター・春学期後半を夏クォーター・秋学期前半を秋クォーター・秋学期後半を冬クォーターと呼ぶ。

春学期		秋学期	
春クォーター	夏クォーター	秋クォーター	冬クォーター

II 履修通則

全日制グローバルプログラム

1 修了要件

(1) 学位

以下の要件をすべて満たした者に対して、「経営管理修士（専門職）」の学位を授与する。

- ① 全日制グローバルプログラムに正規生として2年以上在学していること。
- ② 本研究科が定める科目区分に従い修了に必要な単位を50単位以上修得していること。
- ③ 演習および研究指導における指導を受けて、専門職学位論文を執筆し、専門職学位論文の審査ならびに最終試験に合格していること。
- ④ トータルのS.A.値が0.80を下回らないこと。

(2) 修了必要単位数

科目区分		修了必要単位	備考
必修コア科目		14単位	・必修コア科目7科目14単位を全て修得する。
選択必修コア科目		6単位以上	・選択必修コア科目から3科目6単位以上修得する。 ・6単位を超えた単位については修了必要単位の合計に算入する。
選択科目	日英科目または海外開講科目	4単位以上	・日英科目または海外開講科目から2科目4単位以上修得する。
	一般選択科目	8単位以上	・一般選択科目から4科目8単位以上修得する。
専門研究	演習	8単位	・1年次より各学期に配当する。
	研究指導 (2年次より配当)	右記参照	・2年次より各学期に配当する。 ・単位は付与しないが半期ごとに可否を判定し成績を付与する(P/Q判定)。
	専門職学位論文	4単位	
合計		50単位以上	

2 科目登録・履修

(1) 科目登録

各学期のはじめに、各自の履修計画に即してその学期に履修しようとする科目を選択し、指定された期間内に所定の方式により登録手続きを完了しなければならない。

(2) 言語科目の履修

本プログラムに所属する学生は、修了要件とは別に「言語科目」の履修を推奨する。修了必要単位数には算入されないが、8単位以上の履修を目標とする。4月入学生は、グローバルエデュケーションセンターの英語科目、9月入学生は、日本語教育研究センターの日本語科目を履修する。このほか、コア科目（4月入学生は英語、9月入学生は日本語）を言語科目として履修できる。

コア科目を言語科目として履修する場合は、通常履修が完了した 2 回目の履修からのみ可能とする。この場合、成績は P/Q 判定となる。

なお、グローバルエデュケーションセンター設置の英語科目、日本語教育研究センター設置の日本語科目履修には、別途聴講料が生じる。

(3) 本研究科内他プログラム、他箇所等設置科目の履修制限・単位の取扱い

【本プログラム所属学生の場合】

対象プログラム・研究科	科目区分	算入する科目区分	上限単位数（※１）など
MSc in Finance	・必修コア科目	履修不可	
	・選択必修コア科目	一般選択科目	在学中通算 10 単位を上限として履修を許可し、修了に必要な単位として認める。
夜間主総合 夜間主プロフェッショナル	・必修コア科目 ・選択必修コア科目	履修不可（※２）	
	・一般選択科目	一般選択科目	在学中通算 10 単位を上限として履修を許可し、修了に必要な単位として認める。
		自由科目	一般選択科目として 10 単位履修済みの場合に限り、6 単位を上限として自由科目として履修を認める。
他研究科提供科目、グローバルエデュケーションセンター設置科目（対象科目のみ※３）		一般選択科目	在学中通算 10 単位を上限として履修を許可し、修了に必要な単位として認める。
他箇所設置科目（グローバルエデュケーションセンター・日本語教育研究センター）		自由科目	履修制限は設けないが、自由科目とする。
早稲田－ナンヤングブル MBA 特設科目		一般選択科目	制限なし

※1 本プログラム所属学生が MSc in Finance の選択必修コア科目を 10 単位履修した場合でも、さらに夜間主プログラムの一般選択科目を最大 10 単位履修することができる。(他研究科提供科目の履修の場合も同様)

※2 全日制設置の必修コア科目を修得できなかった場合に限り、次学期以降夜間主設置の当該必修コア科目を履修することができる。

※3 一般選択科目に算入するグローバルエデュケーションセンター設置科目は研究科ホームページを確認すること。

(4) 登録上限単位数

各学期における登録上限単位数は 22 単位とする。

- ① 各期の集中講義科目の単位を含む。
- ② 専門研究科目(演習、専門職学位論文)の単位を含む。
- ③ 自由科目および言語科目の単位は含まない。
- ④ 科目等履修生として入学前に履修し認定された科目の単位は含まない。
- ⑤ 在学中に海外大学院等に留学し認定された科目の単位は含まない。

(5) 登録取消単位数

登録科目の取消は、科目取消期間(各学期初めに設定されているセメスター科目・前半科目・後半科目のいずれも取り消すことができる期間)においては各学期 6 単位(3 科目)を上限とし、さらに後半科目取消期間(後半科目開始時期に設定され

ている後半科目のみ取り消すことができる期間)においては各学期2単位(1科目)を上限とする。対象は本研究科設置の講義科目のみとする。

(6) 科目重複履修

演習および研究指導を除き、一度単位を修得した科目を再度履修することはできない。また、担当教員や講義内容・言語が異なっている場合でも、同一科目の重複履修は認めない。ただし、一度履修したコア科目と同一他言語の科目(4月入学者にとっては英語科目、9月入学者にとっては日本語科目が他言語科目となる)を「言語科目」として履修する場合に限り、同一コア科目の重複履修を認める。

(7) 入学前に修得した科目の振替

本研究科入学以前に、本学他研究科あるいは国内外の他大学大学院に在籍し、授業科目を履修し修得した単位を本プログラムの履修単位として振り替えることは、原則として行わない。

本研究科に正規生または科目等履修生として在籍した学生が、本研究科の正規生として入学を認められた場合は、正規生または科目等履修生として修得した本研究科の科目のうち、6単位(3科目)を上限として、所定の手続きを経て修了に必要な単位として認定することができる。

また、商学研究科ビジネス専攻またはファイナンス研究科に正規生または科目等履修生として在籍した学生が、本研究科の正規生として入学を認められた場合は、正規生または科目等履修生として修得した商学研究科ビジネス専攻またはファイナンス研究科の科目のうち、6単位(3科目)を上限として、所定の手続きを経て修了に必要な単位として認定する場合がある。※単位認定を希望する場合は、入学後1か月以内に事務所にて手続きを行う必要がある。

(8) 在学中に海外大学院等に留学し、修得した科目の認定

本研究科入学後に海外大学院等に留学し修得した科目については、12単位を上限として所定の審査を経て修了に必要な単位として認定する場合がある。

3 専門職学位論文

- (1) 特定の課題における理論的あるいは実践的考察に加えて、先行研究に関する批判的研究と独自の考察を含む研究成果である。
- (2) 執筆要領に従って作成すること。
- (3) 日本語または英語により作成すること。
- (4) 口述試験を実施する。

4 科目履修のガイドライン

- (1) 各学期の科目配当を確認し、科目履修の長期計画を立てること。
- (2) 選択科目や論文作成の前提になるため、必修コア科目と選択必修コア科目は1年次での履修を強く推奨する。
- (3) 論文作成に必要な科目はゼミ指導教員と相談の上、計画的に履修すること。
- (4) 交換留学やダブルディグリープログラムへの出願を計画している学生は、修了に必要な科目を、留学時期を勘案して計画的に履修すること。
(全日制のコア科目は、年間に1クラスのみ設置されているため、1年次春学期に履修せず、2年次春学期に留学した場合、2年次も履修できない。)

1 年制総合プログラム

1 修了要件

(1) 学位

以下の要件をすべて満たした者に対して、「経営管理修士（専門職）」の学位を授与する。

- ① 1 年制総合プログラムに正規生として 1 年以上在学していること。
- ② 本研究科が定める科目区分に従い修了に必要な単位を 50 単位以上修得していること。
- ③ プロジェクト研究および研究指導における指導を受けて、プロジェクト研究論文を執筆し、プロジェクト研究論文の審査ならびに最終試験に合格していること。
- ④ トータルの S.A. 値が 0.80 を下回らないこと。

(2) 修了必要単位数

科目区分		修了必要単位	備考
必修コア科目		14 単位	・必修コア科目 7 科目 14 単位を全て修得する。
選択必修コア科目		6 単位以上	・選択必修コア科目から 3 科目 6 単位以上修得する。 ・6 単位を超えた単位については修了必要単位の合計に算入する。
選択科目	日英科目	20 単位以上	・選択科目から 10 科目 20 単位以上修得する。
	海外開講科目		
	一般選択科目		
専門研究	プロジェクト研究	4 単位	・1 年次の各学期に配当する。
	研究指導	右記参照	・1 年次の各学期に配当する。 ・単位は付与しないが半期ごとに合否を判定し成績を付与する（P/Q 判定）。
	プロジェクト研究論文	2 単位	
合計		50 単位以上	

2 科目登録・履修

(1) 科目登録

各学期のはじめに、各自の履修計画に即してその学期に履修しようとする科目を選択し、指定された期間内に所定の方式により登録手続きを完了しなければならない。

(2) 本研究科内他プログラム、他箇所等設置科目の履修制限・単位の取扱い

【本プログラム所属学生の場合】

対象プログラム・研究科	科目区分	算入する科目区分	上限単位数（※１）など
MSc in Finance	・必修コア科目	履修不可	
	・選択必修コア科目	一般選択科目	在学中通算 10 単位を上限として履修を許可し、修了に必要な単位として認める。
夜間主総合 夜間主プロフェッショナル	・必修コア科目 ・選択必修コア科目	履修不可（※２）	
	・一般選択科目	一般選択科目	在学中通算 10 単位を上限として履修を許可し、修了に必要な単位として認める。
		自由科目	一般選択科目として 10 単位履修済みの場合に限り、6 単位を上限として自由科目として履修を認める。
他研究科提供科目、グローバルエデュケーションセンター設置科目（対象科目のみ※３）		一般選択科目	在学中通算 10 単位を上限として履修を許可し、修了に必要な単位として認める。
他箇所設置科目（グローバルエデュケーションセンター・日本語教育研究センター）		自由科目	履修制限は設けないが、自由科目とする。
早稲田ーナンヤングダブル MBA 特設科目		一般選択科目	制限なし

- ※1 本プログラム所属学生が MSc in Finance の選択必修コア科目を 10 単位履修した場合でも、さらに夜間主プログラムの一般選択科目を最大 10 単位履修することができる。(他研究科提供科目の履修の場合も同様)
- ※2 全日制設置の必修コア科目を修得できなかった場合に限り、次学期以降夜間主設置の当該必修コア科目を履修することができる。
- ※3 一般選択科目に算入するグローバルエデュケーションセンター設置科目は研究科ホームページを確認すること。

(3) 登録上限単位数

各学期における登録上限単位数は 34 単位とする。

- ① 各期の集中講義科目の単位を含む。
- ② 専門研究科目(プロジェクト研究、プロジェクト研究論文)の単位を含む。
- ③ 自由科目の単位は含まない。
- ④ 科目等履修生として入学前に履修し認定された科目の単位は含まない。
- ⑤ 在学中に海外大学院等に留学し認定された科目の単位は含まない。

(4) 登録取消単位数

登録科目の取消は、科目取消期間(各学期初めに設定されているセメスター科目・前半科目・後半科目のいずれも取り消すことができる期間)においては各学期 6 単位(3 科目)を上限とし、さらに後半科目取消期間(後半科目開始時期に設定されている後半科目のみ取り消すことができる期間)においては各学期 2 単位(1 科目)を上限とする。対象は本研究科設置の講義科目のみとする。

(5) 科目重複履修

プロジェクト研究および研究指導を除き、一度単位を修得した科目を再度履修することはできない。また、担当教員や講義内容・言語が異なっても、同一科目の重複履修は認めない。

(6) 入学前に修得した科目の振替

本研究科入学以前に、本学他研究科あるいは国内外の他大学大学院に在籍し、授業科目を履修し修得した単位を本プログラムの履修単位として振り替えることは、原則として行わない。

本研究科に正規生または科目等履修生として在籍した学生が、本研究科の正規生として入学を認められた場合は、正規生または科目等履修生として修得した本研究科の科目のうち、6単位（3科目）を上限として、所定の手続きを経て修了に必要な単位として認定することができる。

また、商学研究科ビジネス専攻またはファイナンス研究科に正規生または科目等履修生として在籍した学生が、本研究科の正規生として入学を認められた場合は、正規生または科目等履修生として修得した商学研究科ビジネス専攻またはファイナンス研究科の科目のうち、6単位（3科目）を上限として、所定の手続きを経て修了に必要な単位として認定する場合がある。※単位認定を希望する場合は、入学後1か月以内に事務所にて手続きを行う必要がある。

(7) 在学中に海外大学院等に留学し、修得した科目の認定

本研究科入学後に海外大学院等に留学し修得した科目については、12単位を上限として所定の審査を経て修了に必要な単位として認定する場合がある。

3 プロジェクト研究論文

- (1) 特定の課題における理論的あるいは実践的考察を含む研究成果である。
- (2) 執筆要領に従って作成すること。
- (3) 日本語または英語により作成すること。
- (4) 公開審査会を実施する。

夜間主総合プログラム

1 修了要件

(1) 学位

以下の要件をすべて満たした者に対して、「経営管理修士（専門職）」の学位を授与する。

- ① 夜間主総合プログラムに正規生として2年以上在学していること。
- ② 本研究科が定める科目区分に従い修了に必要な単位を50単位以上修得していること。
- ③ プロジェクト研究および研究指導における指導を受けて、プロジェクト研究論文を執筆し、プロジェクト研究論文の審査ならびに最終試験に合格していること。
- ④ トータルのS.A.値が0.80を下回らないこと。

(2) 修了必要単位数

科目区分		修了必要単位	備考
必修コア科目		14単位	・必修コア科目7科目14単位を全て修得する。
選択必修コア科目		6単位以上	・選択必修コア科目から3科目6単位以上修得する。 ・6単位を超えた単位については修了必要単位の合計に算入する。
選択科目	日英科目	20単位以上	・選択科目から、10科目20単位以上修得する。
	海外開講科目		
	一般選択科目		
専門研究	プロジェクト研究 (2年次より)	4単位	・2年次より各学期に配当する。
	研究指導 (2年次より)	右記参照	・2年次より各学期に配当する。 ・単位は付与しないが半期ごとに可否を判定し成績を付与する(P/Q判定)。
	プロジェクト研究論文	2単位	
合計		50単位以上	

2 科目登録・履修

(1) 科目登録

各学期のはじめに、各自の履修計画に即してその学期に履修しようとする科目を選択し、指定された期間内に所定の方式により登録手続きを完了しなければならない。

(2) 本研究科内他プログラム、他箇所等設置科目の履修制限・単位の取扱い

【本プログラム所属学生の場合】

対象プログラム・研究科	科目区分	算入する科目区分	上限単位数(※1)など
全日制グローバル 1年制総合 早稲田-ナンヤン ダブル MBA	・必修コア科目 ・選択必修コア科目	履修不可	
	・日英科目または海外開講科目 ・一般選択科目 ・早稲田-ナンヤンダブル MBA 特設科目	一般選択科目	在学中通算 10 単位を上限として履修を許可し、修了に必要な単位として認める。
MSc in Finance	・必修コア科目	履修不可	
	・選択必修コア科目	一般選択科目	在学中通算 10 単位を上限として履修を許可し、修了に必要な単位として認める。
他研究科提供科目、グローバルエデュケーションセンター設置科目(対象科目のみ※2)		一般選択科目	在学中通算 10 単位を上限として履修を許可し、修了に必要な単位として認める。
他箇所設置科目(グローバルエデュケーションセンター・日本語教育研究センター)		自由科目	履修制限は設けませんが、自由科目とする。

※1 本プログラム所属学生が全日制プログラムの選択科目を 10 単位履修した場合でも、さらに MSc in Finance の選択必修コア科目を最大 10 単位履修することができる。(他研究科提供科目の履修の場合も同様)

※2 一般選択科目に算入するグローバルエデュケーションセンター設置科目は研究科ホームページを確認すること。

(3) 登録上限単位数

各学期における登録上限単位数は 22 単位とする。

- ① 各期の集中講義科目の単位を含む。
- ② 専門研究科目(プロジェクト研究、プロジェクト研究論文)の単位を含む。
- ③ 自由科目の単位は含まない。
- ④ 科目等履修生として入学前に履修し認定された科目の単位は含まない。
- ⑤ 在学中に海外大学院等に留学し認定された科目の単位は含まない。

(4) 登録取消単位数

登録科目の取消は、科目取消期間(各学期初めに設定されているセメスター科目・前半科目・後半科目のいずれも取り消すことができる期間)においては各学期 6 単位(3 科目)を上限とし、さらに後半科目取消期間(後半科目開始時期に設定されている後半科目のみ取り消すことができる期間)においては各学期 2 単位(1 科目)を上限とする。対象は本研究科設置の講義科目のみとする。

(5) 科目重複履修

プロジェクト研究および研究指導を除き、一度単位を修得した科目を再度履修することはできない。また、担当教員や講義内容・言語が異なっても、同一科目の重複履修は認めない。

(6) 入学前に修得した科目の振替

本研究科入学以前に、本学他研究科あるいは国内外の他大学大学院に在籍し、授業科目を履修し修得した単位を本プログラムの履修単位として振り替えることは、原則として行わない。

本研究科に正規生または科目等履修生として在籍した学生が、本研究科の正規生として入学を認められた場合は、正規生または科目等履修生として修得した本研究科の科目のうち、6単位（3科目）を上限として、所定の手続きを経て修了に必要な単位として認定することができる。

また、商学研究科ビジネス専攻またはファイナンス研究科に正規生または科目等履修生として在籍した学生が、本研究科の正規生として入学を認められた場合は、正規生または科目等履修生として修得した商学研究科ビジネス専攻またはファイナンス研究科の科目のうち、6単位（3科目）を上限として、所定の手続きを経て修了に必要な単位として認定する場合がある。※単位認定を希望する場合は、入学後1か月以内に事務所にて手続きを行う必要がある。

(7) 在学中に海外大学院等に留学し、修得した科目の認定

本研究科入学後に海外大学院等に留学し修得した科目については、12 単位を上限として所定の審査を経て修了に必要な単位として認定する場合がある。

3 プロジェクト研究論文

- (1) 特定の課題における理論的あるいは実践的考察を含む研究成果である。
- (2) 執筆要領に従って作成すること。
- (3) 日本語または英語により作成すること。
- (4) 公開審査会を実施する。

4 科目履修のガイドライン

- (1) 各学期の科目配当を確認し、科目履修の長期計画を立てること。
- (2) 選択科目や論文作成の前提になるため、必修コア科目と選択必修コア科目は1年次での履修を強く推奨する。
- (3) 論文作成に必要となる科目はゼミ指導教員と相談の上、計画的に履修すること。
- (4) 交換留学やダブルディグリープログラムへの出願を計画している学生は、修了に必要な科目を、留学時期を勘案して計画的に履修すること。
(夜間主の必修コア科目は複数クラスあるが、原則として片方の学期にのみ設置されているため、1年次春学期に履修せず、2年次春学期に留学した場合、2年目も履修できない。)

夜間主プロフェッショナルプログラム

1 修了要件

(1) 学位

以下の要件をすべて満たした者に対して、「経営管理修士（専門職）」の学位を授与する。

- ① 夜間主プロフェッショナルプログラムに正規生として2年以上在学していること。
- ② 本研究科が定める科目区分に従い修了に必要な単位を50単位以上修得していること。
- ③ 演習および研究指導を受けて、マネジメント専修は専門職学位論文を、ファイナンス専修はプロジェクト研究論文を執筆し、それぞれの審査ならびに最終試験に合格していること。
- ④ トータルのS.A.値が0.80を下回らないこと。

(2) 修了必要単位数

科目区分			修了必要単位	備考
必修コア科目			14 単位	・ 必修コア科目 7 科目 14 単位を全て修得する。
選択科目		日英科目	マネジメント 専修 24 単位以上	・ 選択科目の中から、自身の所属するモジュールが指定する 3 科目 6 単位以上修得することを履修指導する。 * 選択必修コア科目（MBA プログラム）を修得した場合、一般選択科目の単位として算入する。
		海外開講科目	ファイナンス 専修 28 単位以上	
		一般選択科目		
専門研究	マネジメント 専修	演習	8 単位	・ 1 年次より各学期に配当する。
		研究指導 （2 年次より）	右記参照	・ 2 年次より各学期に配当する。 ・ 単位は付与しないが半期ごとに可否を判定し成績を付与する（P/Q 判定）。
		専門職学位論文	4 単位	
	ファイナンス 専修	演習	6 単位	・ 第 2 セメスターより各学期に配当する。 半期毎に異なる演習を履修する。 * 同一学期に、複数の演習を履修することはできない。 * 在学中 3 科目（6 単位）までを上限とし、それ以上の履修は認められない。
		研究指導 （2 年次より）	右記参照	・ 2 年次より各学期に配当する。 ・ 単位は付与しないが半期ごとに可否を判定し成績を付与する（P/Q 判定）。
		プロジェクト研究論文	2 単位	
合計			50 単位以上	

2 科目登録・履修

(1) 科目登録

各学期のはじめに、各自の履修計画に即してその学期に履修しようとする科目を選択し、指定された期間内に所定の方式により登録手続きを完了しなければならない。

(2) 本研究科内他プログラム、他箇所等設置科目の履修制限・単位の取扱い

【本プログラム所属学生の場合】

対象プログラム・研究科	科目区分	算入する科目区分	上限単位数(※1)など
全日制グローバル 1年制総合 早稲田-ナンヤン ダブル MBA	・必修コア科目 ・選択必修コア科目	履修不可	
	・日英科目または海外開講科目 ・一般選択科目 ・早稲田-ナンヤンダブル MBA 特設科目	一般選択科目	在学中通算 10 単位を上限として履修を許可し、修了に必要な単位として認める。
MSc in Finance	・必修コア科目	履修不可	
	・選択必修コア科目	一般選択科目	在学中通算 10 単位を上限として履修を許可し、修了に必要な単位として認める。
他研究科提供科目、グローバルエデュケーションセンター設置科目(対象科目のみ※2)		一般選択科目	在学中通算 10 単位を上限として履修を許可し、修了に必要な単位として認める。
他箇所設置科目(グローバルエデュケーションセンター・日本語教育研究センター)		自由科目	履修制限は設けないが、自由科目とする。

※1 本プログラム所属学生が全日制プログラムの選択科目を 10 単位履修した場合でも、さらに MSc in Finance の選択必修コア科目を最大 10 単位履修することができる。(他研究科提供科目の履修の場合も同様)

※2 一般選択科目に算入するグローバルエデュケーションセンター設置科目は研究科ホームページを確認すること。

(3) 登録上限単位数

各学期における登録上限単位数は 22 単位とする。

- ① 各期の集中講義科目の単位を含む。
- ② 専門研究科目(演習、専門職学位論文)の単位を含む。
- ③ 自由科目の単位は含まない。
- ④ 科目等履修生として入学前に履修し認定された科目の単位は含まない。
- ⑤ 在学中に海外大学院等に留学し認定された科目の単位は含まない。

(4) 登録取消単位数

登録科目の取消は、科目取消期間(各学期初めに設定されているセメスター科目・前半科目・後半科目のいずれも取り消すことができる期間)においては各学期 6 単位(3 科目)を上限とし、さらに後半科目取消期間(後半科目開始時期に設定されている後半科目のみ取り消すことができる期間)においては各学期 2 単位(1 科目)を上限とする。対象は本研究科設置の講義科目のみとする。

(5) 科目重複履修

プロジェクト研究および研究指導を除き、一度単位を修得した科目を再度履修することはできない。また、担当教員や講義内容・言語が異なっている場合でも、同一科目の重複履修は認めない。

(6) 入学前に修得した科目の振替

本研究科入学以前に、本学他研究科あるいは国内外の他大学大学院に在籍し、授業科目を履修し修得した単位を本プログラムの履修単位として振り替えることは、原則として行わない。

本研究科に正規生または科目等履修生として在籍した学生が、本研究科の正規生として入学を認められた場合は、正規生または科目等履修生として修得した本研究科の科目のうち、6単位（3科目）を上限として、所定の手続きを経て修了に必要な単位として認定することができる。

また、商学研究科ビジネス専攻またはファイナンス研究科に正規生または科目等履修生として在籍した学生が、本研究科の正規生として入学を認められた場合は、正規生または科目等履修生として修得した商学研究科ビジネス専攻またはファイナンス研究科の科目のうち、6単位（3科目）を上限として、所定の手続きを経て修了に必要な単位として認定する場合がある。※単位認定を希望する場合は、入学後1か月以内に事務所にて手続きを行う必要がある。

(7) 在学中に海外大学院等に留学し、修得した科目の認定

本研究科入学後に海外大学院等に留学し修得した科目については、12単位を上限として所定の審査を経て修了に必要な単位として認定する場合がある。

3 専門職学位論文＜マネジメント専修＞

- (1) 特定の課題における理論的あるいは実践的考察に加えて、先行研究に関する批判的研究と独自の考察を含む研究成果である。
- (2) 執筆要領に従って作成すること。
- (3) 日本語または英語により作成すること。
- (4) 口述試験を実施する。

4 プロジェクト研究論文＜ファイナンス専修＞

- (1) 特定の課題における理論的あるいは実践的考察を含む研究成果である。
- (2) 執筆要領に従って作成すること。
- (3) 日本語または英語により作成すること。
- (4) 公開審査会を実施する。

5 科目履修のガイドライン

- (1) 各学期の科目配当を確認し、科目履修の長期計画を立てること。
- (2) 選択科目や論文作成の前提になるため、必修コア科目と選択必修コア科目は1年次での履修を強く推奨する。
- (3) 論文作成に必要な科目はゼミ指導教員と相談の上、計画的に履修すること。
- (4) 交換留学やダブルディグリープログラムへの出願を計画している学生は、修了に必要な科目を、留学時期を勘案して計画的に履修すること。
(夜間主の必修コア科目は複数クラスあるが、原則として片方の学期にのみ設置されているため、1年次春学期に履修せず、2年次春学期に留学した場合、2年目も履修できない。)

早稲田-ナンヤン ダブル MBA プログラム（本研究科入学後の申請は不可）

本研究科とシンガポールの^{ナンヤン}南洋理工大學ビジネススクール（ナンヤン）が合同で実施するダブル MBA プログラムである。本プログラムに在籍する学生は、シンガポールで約 8 か月、日本で約 6 か月の計 14 か月以上在学し、ナンヤンでは主にコア科目、本研究科では選択科目や演習を履修して所定の要件を満たすことで、ナンヤンからは「Master of Business Administration」、本研究科からは「経営管理修士（専門職）」の学位が与えられる。

早稲田-ESCP ダブルディグリープログラム（本研究科入学後に申請可能）

フランスの ESCP ヨーロッパビジネススクール（ESCP）と実施するダブルディグリープログラムである。

1 ダブルディグリー取得要件

- ① 全日制 MBA プログラムに在籍し、本研究科にて 2 学期以上、ESCP にて 2 学期以上在学していること（※ 1）
- ② 本研究科と ESCP、双方の修了要件を満たすこと（※ 2）

2 学位

上記要件をすべて満たした者に対して、本研究科からは「経営管理修士（専門職）」、ESCP からは「Master in Management」の学位をそれぞれ授与する。

※ 1 本プログラム参加にあたっては、9 月入学生は、修了年限の延長を伴わずに学位取得が可能であるが、4 月入学生が本プログラムに参加する場合、少なくとも半年の在学期間延長が必要となる。

※ 2 詳細な修了要件については、別途 10 月末頃案内する募集要項を参照すること。

III 科目等履修生

- （1）選考のうえ、科目等履修生の入学を許可することがある。
- （2）本研究科では、以下の区分の科目等履修生を受け入れる。
 - ・委託履修生（企業派遣）
 - ・修了生、修了予定者
- （3）委託履修生（企業派遣）とは、所属する企業等から委託され、本研究科において授業科目を履修することを許可された者をいう。
- （4）修了生、修了予定者とは、本研究科（もしくは前身となる研究科）を修了、または修了見込の者で、本研究科において授業科目を履修することを許可された者をいう。
- （5）科目等履修生が本研究科に正規生として入学を認められた場合には、科目等履修生として本研究科において修得した単位について、所定の手続きを経て 6 単位（3 科目）を上限として修了に必要な単位として認定することができる。※単位認定を希望する場合は、入学後 1 か月以内に事務所にて手続きを行う必要がある。

IV 授業時間・休講・補講等

1 授業時間

授業時間は下表のとおりである。各科目の時間割は、Web シラバスおよび時間割表等に掲出する。

全日制の5時限目（17:00～18:40）と夜間主の6時限目（18:30～20:10）は時間が重複するので、重複して履修することはできない。

時限	時間	全日制 ^ケ ローハ ^ル 1年制総合 MSc in Finance	夜間主総合 夜間主 ^{プロ} フェッショナル
1時限	8:50～10:30	○	○（土曜日）
2時限	10:40～12:20	○	○（土曜日）
3時限	13:10～14:50	○	○（土曜日）
4時限	15:05～16:45	○	○（土曜日）
5時限	17:00～18:40	○	○（土曜日）
6時限	18:55～20:35	○	○（土曜日）
7時限	20:45～21:35	○	
夜間 6時限	18:30～20:10		○（月～金曜日）
夜間 7時限	20:20～22:00		○（月～金曜日）

※入試要項に記載したとおり、早稲田大学では全学的に2023年4月より100分授業に移行する。研究科ホームページに公開される情報に留意されたい。

2 休講

大学の行事あるいは各科目の担当教員のやむを得ない事情が発生した場合は、授業を休講することがある。休講の通知は、MyWasedaの休講情報揭示機能にて行う。

なお、気象警報の発表、首都圏の鉄道等がストライキを実施した場合などの授業休講措置については、学生のしおり「授業期間中の全学休講の取り扱いについて」を参照すること。

3 補講

休講のあった科目は、補講期間などに補講が行われる。補講の実施は、事務所に届け出のあった科目について、本研究科ホームページ・掲示板、または教員より直接通知する。

4 レポート提出

レポートの提出は担当教員からの指示がない限り、経営管理研究科事務所（11号館3階）内のレポートボックスに指定された締切時間までに提出すること。夜間プログラム（夜間主総合・夜間主プロフェッショナル）については、大学院夜間事務所（11号館10階）内のレポートボックスでも提出を受け付ける（月～金曜日。土曜日は11号館3階事務所で受付）。また、26号館で実施する授業については、経営管理研究科教員室内（26号館9階）で受け付ける。

レポートボックスに提出するレポートには必ず所定の表紙を付けること。表紙は経営管理研究科ホームページからダウンロードできる。経営管理研究科事務所、大学院夜間事務所および経営管理研究科教員室におけるレポートボックスの利用は開室時間のみのみで、時間外のレポート受付は一切行わない。

5 本研究科以外の箇所が提供する科目の履修・試験等について

科目提供箇所の指示に従って各自履修をすること。本研究科のスケジュールと異なる場合があるので、履修にあたっては十分注意すること。

V 総合成績の判定

- 1 講義科目の成績は原則として $A^+ \cdot A \cdot B \cdot C \cdot F$ の五級に分ち、 $A^+ \cdot A \cdot B \cdot C$ を合格とし、 F を不合格とする。特定の科目について P および Q の二級に分け、P を合格、Q を不合格とする。成績証明書には修了要件算入・非参入対象科目の双方の合格科目のみ記載され、不合格科目は記載されない。

PQ 評価対象科目
日英科目、「ビジネスのためのクリエイティブ・プロセスと倫理」、「ファミリービジネスの経営 A：理論からファミリービジネスプランへ」、「ビジネス英語」、「ファミリービジネスと国際化」、「リーダーシップ論 A」、「リーダーシップ論 B」、「実践事例研究」、「トップ起業家との対話」、「ICT ドリブンの経営戦略」、「企業人のためのダイバーシティ・マネジメント」および各プログラムにおける「研究指導科目」
※2023 年度開講実績。その年度のカリキュラムによって変更の可能性がございます。

2 S.A.値と大学 GPA について

本研究科では、個人の成績平均点について2種類の基準を用いている。このうち、S.A.値については、利用範囲を本研究科内に限定し、箇所間協定における派遣留学生選考や、本研究科内で採用候補者を決定する奨学金選考等において使用する基準となる。

一方、大学 GPA については、大学間協定における派遣留学生選考や、大学全体で採用候補者を決定する奨学金選考等において使用する基準となる。

S.A.値と大学 GPA の大きな違いは、S.A.値には専門研究科目および他研究科・他箇所設置科目が含まれないことである。

(1) S.A.値について

本研究科においては、次の計算式によって S.A. 値を算出する。

- ① 各評価をそれぞれの段階に相応する成績点に変換する。
- ② 各評価に対する成績点は、次のとおりである。

評 価	点 数	成績点	評 価	点 数	成績点
A ⁺	100～90点	3	C	69～60点	0
A	89～80点	2	F	59点以下	-1
B	79～70点	1			

③ 計算式

それぞれの「科目の単位数」と「成績点」の積の総和を「総登録単位数」で割って、スコア化したものが S.A.値 (Scholarship Average) である。

これを式で表すと、次のようになる。

$$(A^+ \text{ 修得単位数} \times 3) + (A \text{ 修得単位数} \times 2) + (B \text{ 修得単位数} \times 1) + (C \text{ 修得単位数} \times 0) + (\text{不合格科目単位数} \times -1)$$

総登録単位数 (不合格科目を含む、S.A.値非参入科目は除く)

※小数点第2位まで表示する。(小数点第3位は四捨五入)

④ S.A.値算入対象科目

プログラム	対象科目
全日制グローバル 1年制総合 夜間主総合 夜間主プロフェッショナル	下記科目を除く全ての本研究科設置科目。 S.A.値非算入科目 「専門研究科目（演習・研究指導・プロジェクト研究・論文）」、 「PQ 評価科目」、「自由科目」、「他専攻・他研究科・他箇所設置科目」

⑤ S.A.値の通知・証明

S.A.値は、「Web 成績照会画面」で確認できる。なお、「成績証明書」には、S.A.値は記載されない。

(2) 大学 GPA について

本学においては、次の計算式によって GPA を算出する。

- ① 各評価をそれぞれの段階に相応する成績点をもって表示し、これをグレイド・ポイント (Grade Points) と呼ぶ。
- ② 各評価に対するグレイド・ポイントは、次のとおりである。

評 価	点 数	G . P .	評 価	点 数	G . P .
A ⁺	100～90点	4	C	69～60点	1
A	89～80点	3	F	59点以下	0
B	79～70点	2			

③ 計算式

それぞれの「科目の単位数」と「成績評価の Grade Point」の積の総和を「総登録単位数」で割って、スコア化したものが大学 GPA (Grade Point Average) である。

総登録単位数には、不合格科目の単位も含まれる。

これを式で表すと、次のようになる。

$$(A^+ \text{ 修得単位数} \times 4) + (A \text{ 修得単位数} \times 3) + (B \text{ 修得単位数} \times 2) + (C \text{ 修得単位数} \times 1) + (\text{不合格科目単位数} \times 0)$$

修了要件参入対象科目として登録した総登録単位数 (不合格科目を含む)

※小数点第2位まで表示する。(小数点第3位は四捨五入)

④ 対象科目

修了要件算入対象科目として登録した科目が対象となる。

(自由科目は対象とならない。)

ただし、PQ 評価対象科目は修了要件算入対象科目でも GPA 計算の対象から除外される。

⑤ 大学 GPA の通知・証明

大学 GPA は、「Web 成績照会画面」で確認できる。

また、大学 GPA 対象科目の成績および GPA が記載された「GPA 証明書」(修了要件算入対象科目のみ記載、合格・不合格科目とも記載)を発行する。

なお、「成績証明書」には、GPA は記載されない。

3 成績評価（相対評価と準相対評価および絶対評価）について

本研究科では、成績評価において相対評価と準相対評価および絶対評価の三つの評価方法を設けている。

評価方法	適用科目区分
相対評価	必修コア科目、選択必修コア科目（MSc 除く）
準相対評価	一般選択科目、選択必修コア科目（MSc）
絶対評価	演習、プロジェクト研究、論文

基準

相対評価	A+：正規履修者数の 20% 以内 A+と A の合計：正規履修者数の 40% 以内
準相対評価	A+：正規履修者数に +5 を加えた数の 20% 以内 A+と A の合計：正規履修者数に +5 を加えた数の 50% 以内

評価方法は所属プログラムに関わらず、主たる科目区分によって決まるため、例えば夜間主プロフェッショナル学生が他プログラムの選択必修コア科目を履修する場合は選択科目として修了に必要な単位に加算されるが、評価方法は相対評価となる。履修にあたっては十分注意すること。

4 成績優秀者等の表彰制度について

本研究科では、総代・副総代（3月修了者）、代表・副代表（9月修了者）に加えて、プログラム別に成績優秀者等の表彰を行っている。なお、総代・副総代、代表・副代表については、成績優秀者ボードに氏名を掲出して表彰を行う。

（1）学期ごとの Dean's List：対象者の掲出および証書発行

直近の学期（半年間）に 5 科目以上科目登録（専門研究科目及び PQ 評価科目を除く）し、かつ S.A.値が上位15%以内である者。

（2）修了時の Outstanding Achiever：対象者の掲出および表彰状授与

在籍期間が標準修業年限の者を対象とする。

修了時の S.A.値が上位10%以内である者。

（3）全日制グローバルプログラム学生の Extra Effort Student：表彰状授与

在籍期間が標準修業年限の者を対象とする。

修了時の修了要件算入対象科目の修得単位数が64単位以上及び修了時の S.A.値が1.0以上である者。

VI 海外留学等

1 海外留学制度の概要は以下のとおりである。

留学希望者は、手続き等の詳細について事務所に問い合わせること。

(1) 箇所間協定による派遣留学

本研究科は、39校と学生交換プログラムの協定・覚書を締結※しており、学生の派遣・受け入れを行っている。

※協定校一覧は、当研究科ホームページにて掲載

<https://www.waseda.jp/fcom/wbs/students-and-alumni/abroad>

(2) 大学間協定による派遣留学

本学は、各国の大学と学生交換プログラムの協定を締結しており、協定校に学生を派遣している。詳細は、留学センター発行の『STUDY ABROAD 留学の手引き』を参照すること。

(3) その他の留学

上記の派遣交換留学制度によらず、個人で外国の大学その他の教育機関へ留学をする場合は、事前に経営管理研究科事務所に相談すること。

2 留学期間は、原則として1年以内とする。(留学中の学費および学籍上の取り扱いについては、本研究科事務所へ問い合わせること。)

① 箇所間協定による派遣留学の場合、原則として本学に学費等を全額納め、派遣先の学費は全額免除される。

② 大学間協定による派遣留学の場合は協定先との取り決めにより、学費の取扱いが異なる。

③ 私費留学の場合、留学先の学費に加え、本学の当該期の在籍料として5万円を納める。

3 留学中に修得した単位のうち、所定の手続きおよび審査を経て、修了に必要な単位として12単位を上限として認定する場合がある。認定された場合は一般選択科目に算入され、認定科目名は成績証明書等に原則として英語で記載される。私費留学中に修得した単位が認定された場合は、所定の単位認定料を徴収することがある。

留学先で取得した単位の認定は当該学生の在籍期間中に限り、以下に示す締切日を申請期限とする。認定結果発表は認定する学期の成績発表をもって代える。なお、申請が間に合わない場合は原則として単位認定申請を不可とする。(明らかに締切日までに成績確認が間に合わないプログラムに当該学期修了見込者が参加する場合、単位認定申請を不可とするが、プログラムへの参加は妨げない。)

プログラム修了期間	修了見込者		左記以外	
	認定申請締切	認定結果発表	認定申請締切	認定結果発表
春学期出発者	6月末まで	9月上旬	留学修了から 3ヶ月以内	成績発表日(申請時期によっては成績発表日に間に合わない可能性あり)
秋学期出発者	1月末まで	3月上旬		

Ⅶ 寄附講座・提携講座

早稲田大学（以下、大学と表記します）では、教育研究の質的向上・発展に寄与することを目的として学術研究提携等を行っています。その際、大学の主体性と独自性を堅持するため、次の「ガイドライン」を制定しています。

- （１）学問の自由および独立を守ること。
- （２）世界の平和および人類の福祉に貢献する研究を行うものとし、軍事研究および軍事開発は行わないこと。
- （３）本学における研究活動の発展および教育の向上に寄与すること。
- （４）研究成果の公表を禁止された秘密研究は行わないこと。ただし、研究成果の公表時期に関する研究委託者または協同研究者との信頼関係に基づく合理的制約は、この限りではない。
- （５）社会的に公正であること。
- （６）関連資料を開示の上、民主的な手続きに基づき、掲載等に関する意思決定を行うこと。

また、このガイドラインを正しく運用していくため、大学は、「学術研究提携等審査委員会」を設置して、個々の提携等を審査している。

以下の寄附講座・提携講座は、このような学術研究提携等の一環として上記の審査を経て設置されたものです。

経営管理研究科設置 寄附講座（2024 年度開講）

科目名	寄附元
大川ドリーム基金寄附講座 グローバル・ベンチャー企業の創出と経営一起業家の価値創造戦略	一般財団法人大川ドリーム基金
プロロジス寄附講座 ロジスティクス・SCM	株式会社プロロジス

経営管理研究科設置 提携講座（2024 年度開講）

科目名	提携元
スタートアップ・ファクトリー	ウエルインベストメント株式会社
持続成長戦略論-グローバルリーダーの社会的課題解決の実践-	株式会社 I CMG
パブリック・リレーションズの理論と実践	株式会社井之上パブリックリレーションズ
グローバル人材マネジメント	マーサージャパン株式会社
感性マーケティング論	株式会社エポック社

VII 学籍番号

本研究科の学籍番号は、次の区分により 8 桁で構成されている。

1	2	3	4	5	6	7	8
箇 所		入 学 年 度		個 人 番 号			

箇 所：経営管理研究科「57」
入学年度：入学年度を西暦下 2 桁で表す
個人番号：各プログラムおよび入学時期等により付番

IX 科目に関する用語の説明

用 語	説 明
必修コア科目	学位を取得するうえで全ての基礎となる必修科目。
選択必修コア科目	学位を取得するうえで基礎となる選択必修科目。
一般選択科目	コア科目を修得後に各自の目的によって選択履修する科目。
海外開講科目	当研究科が海外で開講する科目。実際に海外で授業を受けることで、グローバルな環境における視野を広げ、知見を養う。（留学先で修得した科目は海外開講科目には含めない。）
日英科目	英語と日本語の両言語で授業を行い、各言語に慣れ親しむとともに、文化の違い、考え方の違いを学ぶ科目。（日本語生と英語生の交流も促す。）
自由科目	修了要件の算入対象外となる科目。登録上限単位数にも数えない。
言語科目	全日制グローバルプログラムにおける独自の概念。4 月入学生（日本語生）は英語により学び、9 月入学生（英語生）は日本語により学ぶことで、他言語による理解を深めることを目的とする。
モジュール専門科目	夜間主プロフェッショナルプログラムにおける独自の概念。各モジュールの学生が専門性を高めるために学ぶ科目。修了要件とはなっていないが、選択科目の中から、自身の所属するモジュールが指定する 3 科目 6 単位以上履修することが推奨されている。
他研究科提供科目履修	本学の他研究科で開講されている講義科目を履修できる制度。各研究科において履修できる科目と科目数は制限されている。
グローバルエデュケーションセンター設置科目	本学において教育のオープン化を目的として設置された箇所による科目。 Tutorial English 等の英語科目や、その他の外国語などを履修することができる。なお、本研究科が指定した特定の科目は、一般選択科目の単位として算入することができる。科目によって実験実習料（聴講料）が生じる。
チュートリアルイングリッシュ (Tutorial English)	レベル別少人数クラスによる英語学習を目的とした科目。4 月入学の全日制グローバルプログラムにおいては言語科目として取り扱う。実験実習料（聴講料）が生じる。
日本語教育研究センター設置科目	本学における日本語を母語としない学生向けの科目。学生の日本語力に応じて日本語を総合的かつ集中的に学習することができる。9 月入学の全日制グローバルプログラムにおいては、言語科目として取り扱う。科目によって実験実習料（聴講料）が生じる。
合併科目	複数の箇所あるいは専攻・プログラムが合同で開設する科目。研究科間による合併科目、全日制・夜間主間による昼夜合併科目などがある。 昼夜合併科目を全日制学生が履修した場合は全日制科目扱いとなり、夜間主学生が履修した場合は夜間主科目扱いとなる。
セメスター科目・ クォーター科目・ 集中科目	セメスター科目：1 週 1 時限で 14 週（14 回）授業を行う科目。 クォーター科目：春クォーター、夏クォーター、秋クォーター、冬クォーターとして区切られた期間に 2 時限連続または 1 週 1 時限を 2 回（別曜日）行い、7 週で 14 回授業を行う科目。 集中科目：通常の授業期間外に集中して授業を行う科目。
全日制設置科目 夜間主設置科目	全日制設置：平日の昼間（1 時限～6 時限）および土曜日に設置する科目。 夜間主設置：平日の夜間（夜間 6 時限、夜間 7 時限）および土曜日に設置する科目。